

## 2023年度 学校関係者評価報告書

### 1. 目的

自己点検・自己評価の結果を学校関係者評価委員会に報告し、指導・助言を得て、教育活動及び学校運営に活用する

### 2. 参加者（敬称略）

・委員会役員

委員長	前島 良弘	本校非常勤講師/看護系学校受験専門塾 啓学館代表
委員	木原 俊行	大阪教育大学大学院 教授
委員	田上 晶子	大阪府看護学校協議会 副会長/近畿大学附属看護専門学校 教務部長
委員	山口 美裕紀	松下記念病院 看護部長
委員	渡邊 千代子	本校卒業生（24期生）/松下記念病院 師長
委員	原田 英和	守口市立さつき学園 校長（本会欠席）

- ・学校長：村田 博昭
- ・副学校長：大谷 弘恵
- ・教員：木村 緑（教務主任）、坂本 鈴子、北島 恭子、美甘 瞳、小林 美穂、  
新名 未希、芦原 由里、佐藤 哉子、井上 泰仁
- ・事務員：鍛冶舎 穰、石川 澄枝

### 3. 開催日時と内容

2024年3月21日(水)15:00~17:00

① 開会挨拶（村田学校長）

② 参加者自己紹介

③ 学生状況説明（各クラス担任）

48・49・50期生の概要、入試状況、成績状況、特徴について

④ 自己点検・自己評価概要説明（大谷副学校長）

〈重点目標に掲げた内容を中心に概要を説明〉

- ・新カリキュラム2年目：臨床判断の基礎的能力の育成の充実、地域貢献授業を拡大し、すべての領域で地域の方々とかかわる講義・実習を組み立てている
- ・コロナ禍を経た学生の変化：人間関係を構築する力の低下、家族背景などの多様性、思考力・集中力の低下、学力の二極化の進展
- ・2024年4月からの松下記念病院との一体化：看護部と教育連携強化し、育成像の共有ができた。協同プロジェクト立ち上げが決定。
- ・卒業時の学生アンケート、ディプロマポリシー達成度について
- ・受験生確保対策：SNSの強化、高校訪問の再開、入試時期の早期化、一般入試の追加、英検結果の優遇措置、指定校推薦入試対象校の加増により、入試倍率2.1倍を確保できた

⑤ 意見交換

〈松下記念病院（以下、病院とする）との連携について〉

○松下看護専門学校(以下、学校とする)の特色として、主な就職先でもある母体病院と密に連

携していることがわかった。卒業生のアンケート結果でも実習施設への評価が良いのは、病院が教育理念・目的を理解して指導しているからではないかと考えるが、どのように連携をとっているか。

➡2024年4月より組織編成が変わり、病院と学校が一体化運営することになり、改めて学校が育てたい看護師像と病院が求めている看護師像が、言葉の表現は違うが同じだということを確認できた。看護部の管理職との共有はできたが、スタッフへも周知し、協同していくために、今後の活動を考えていく。

○学生状況の説明から、学校としても学生の特性を把握した上での指導を模索していることがわかる。病院スタッフの講師から、学生の学習意欲のなさを感じると、授業を行う意欲が低下すると聞くことがあり、学生の状況・対策を共有・伝達できれば、授業へのモチベーションにつながる。

➡学生の変化について、委員が授業見学した限りでは、学習態度は(委員が講師をする)大学よりも遥かに良いため、学生に対する評価はもっとよくてもいいのではないかと。

学習環境についても、ICT活用が劇的に変化することを予測した見通しが必要。

#### 〈授業評価(アンケート)について〉

○授業アンケートはどのような内容か。

➡授業アンケートは授業評価(10設問)と自己評価(5設問)、各設問4点満点である。アンケート結果をすべての講師へ通知しているが、コメント欄を設けておらず評価の理由が不明であるため、アンケートの改善は次年度に向けた課題。

○アンケート結果について、授業評価は高いが、自己評価が低いと感じるが学生への対応はどうしているか。

➡自己評価の“クラス全体が授業に前向きに取り組む”“予復習を行い授業に取り組む”の設問が低い。授業前に課題を提示すると学習して臨んでいるが、自発的な準備を期待したい。

➡(委員が講師をする)大学では、シラバスに予復習項目を記入しなければならない。

➡自己評価が低いことに関して、学内教員は学生に結果を返すことをしているが、学外の講師についてはできていない現状である。

○アンケートの回収率を維持しながら、授業改善へとつなげるにはどうすることが必要か。

➡2021年からwebアンケートを実施しているが、回収率が低下したため、一斉に回答する時間を設け回収率を維持している。

アンケート項目は少ない方がよく、どうしても必要な内容+自由記述にするなどがよい。

すべての科目を同じように実施するだけでなく、学校の理念が実態に反映しているかを丁寧に確認していくことも必要であるため、特定の科目は聞き取り調査をするなどの方法もある。

例えば、カリキュラム変更後の新設科目や資格取得の必須要件に大きくかわる科目など、学校として大事にしたいことによって選ぶのがよい。

### 〈地域貢献授業について〉

○地域貢献授業についてはどのような取り組みがあるか

- ➡新カリキュラムで新設した科目では、3年生の成人看護学「働くおとなを支える看護」の科目で、近隣の50人程度の産業医のいない事業所に伺い、健康支援や職場環境改善など予防医学を重視した働き方を整えていくという看護実践を行う授業を行っている。
- ➡老年看護学では、2年生の「高齢者の暮らしを知る実習」で、グループホームや老人保健施設、デイサービス・ショートステイなど、多様な施設の中の1施設に伺い、そこで暮らす高齢者の実態を知り、疾患をもちながらその人らしく余生を過ごす様子や認知症の方の言動やその裏にある思いを知り、対応や支援ができるよう施設の方々の協力を得ながら学んでいる。

### 〈新カリキュラムの評価について〉

○来年は新カリキュラムになり3年が経過するが、カリキュラム評価はどのようにしているか

- ➡カリキュラム評価ポリシーを作った上で評価を行うことが必要だと考えているが、実現に至っていない。大事にしていることは、学生がどのように変化したのか、変化していないのか、卒業した学生がどのように看護に取り組んでいるのかだと考えている。卒業生たちが学校に集うホームカミングデーでアンケートを行っている。それ以外に、就職先の新人指導の担当者に、学校で教育しておいてほしいことなどアンケートするなど検討している。
- ➡学内でも、新設科目で何を行っているか、教員同士が周知していないこともある。どのような狙いで、どのような活動をしているのか、学生や実際にかかわらせていただいた方々からも意見をいただき、共有することから始めたい。

## 4. 学校関係者評価総括

- ◇ 病院と学校のさらなる連携強化・協同により魅力ある教育を実現し、質の高い入学生の確保、病院・地域を問わず看護を実践できる力を獲得すること、病院への安定的な人材の輩出につなげる。
- ◇ 授業評価については、授業や実習の改善につながることで、理念が実態に反映しているかを確認できる評価が課題となる。
- ◇ 新カリキュラムの評価については、卒業生の実態把握を行うことと、実習施設や就職先からの評価も必要である。
- ◇ 受験者確保に向けた活動の継続。

